

すべての生命は音から生まれ、音に還ってゆく

なぜ、私たち人間は、これほどまでに音楽を作り、音楽に耳を傾けずにはられないのか。

30年前、この映画に「交響曲」と名をつけたのは、あらゆる楽器がそれぞれ独自の音を奏でながらシンフォニーを奏できるように、生命体である地球のシステムもまた、ともに美しく壮大な調和の音楽を創造する、ひとつの生命のシンフォニーを奏でているようなものだからだ。

今、私たち人間は、明らかに調和を乱す不協和音を奏でている。

調和を求める宇宙の「大いなる意志」によって私たちそのものは抹消されてしまうのか、それとも新たな調和の音楽を創造することができるのか、その選択は私たち自身に委ねられている。

今こそ、私たちは耳には聴こえない“音楽”を聴く“想像力”を取り戻さなくてはならない時だと感じるのだ。

映画監督 **龍 川 仁**

地球交響曲 GAIA SYMPHONY No.9 —第九番—



小林研一郎 / 指揮者

「21世紀の今、ベートーヴェンの『第九』を振ってコバケンを越える指揮者はいない」という音楽関係者の声をよく聴く。奇しくも私と同じ1940年4月の、同年同月生まれである。私と小林研一郎が出会うということは偶然ではない。はっきり言って言葉では説明のできない同じ事柄がお互いにあり、地球交響曲の何か、人間にとって大切なこと、今の時代にやらなくてはならないことがあるのだと確信している。コバケンの仕事を映画にするとかそういうことではない、この時代までの私と彼とがつながり合って生まれる「第九」を、私のいのちの最後として送りたいのだ。

KOBAYASHI Ken-ichiro



本庶 佑 / 医学博士・分子生物学者・ノーベル生理学医学賞受賞者 HONJO Tasuku

「地球交響曲」の構想に大きな勇気を与えてくれた「多様なものが多様なままに共に生きる、それはいのちの摂理である」と語ってくれたのは、本庶佑である。40年前、当時すでに抗体の遺伝子研究で難病解明に大きく貢献し、世界的な評価を得ていた。



すべての生命はひとつながりのものであり、ともに調和しながら永遠に生きている。宇宙誕生の一瞬に生まれた粒子のひとつさえ、宇宙の無数の星々の誕生と死に関わりながらいま、この私の身体の中にあるかもしれない。その記憶を呼び覚ますとき、蘇ってくる懐かしさはどこに繋がっているのか。

遺伝子を見つめることで生まれた新たな生命像は人間の心のありようにも変化のをもたらすのか。いのちとはなにか。その永遠の問いを科学の目から語ってくれる。

スティーブン・ミズン / 認知考古学者

私たち日本人は、「ネアンデルタール人」にどんなイメージを持っているだろうか。

多くの人は、現生人類(ホモサピエンス)が登場する遙か以前にこの地球に生きていた類人猿に近い存在だと思っているかもしれない。ところが、最近のめざましい考古学の新発見によって、ネアンデルタール人は、私たちと同程度の大きな脳と発達した喉を持ち、「言葉」ではないが、「歌声」によって互いに高度なコミュニケーションをしていたのではないかという学説が生まれてきた。つまり、ネアンデルタール人の大きな脳は、言語によるコミュニケーションではなく音楽的コミュニケーションに使われていたというのだ。この学説を提唱したのが認知考古学者スティーブン・ミズンである。彼は、人類の心の始まりを知る鍵は、ネアンデルタール人の心を知ることに語ると語る。

Steven MITHEN



映画では、かねてより縄文文化の自然観、生命観に興味を持っていたスティーブン・ミズンとともに、アイヌや琉球の文化に触れながら、音によって紡がれた世界に触れる旅をすることとなった。

遠い祖先とのつながり、見えない存在とのつながりを思い出す旅は私たちは何を思い出させてくれるのだろうか。

ベートーヴェン交響曲第9番 二短調 作品125「合唱」

Beethoven Sinfonie Nr.9 d-moll op.125

楽聖ベートーヴェンは、生涯に9本の「交響曲」を作曲し、「第九」を作り終えたあと、この世を去った。ベートーヴェンはこの「第九」で初めて楽器だけではなく人間の歌声「合唱」を入れた。



当時、すでに聴覚を失っていたベートーヴェンの耳に、人間の歌声はどのように響いていたのだろうか。

地球交響曲第九番では、「コバケンとその仲間たちオーケストラ」と、この映画の収録のために結成された「ガイアシンフォニー第九合唱団」が、年末恒例の「第九演奏会」に向けて、小林研一郎の気迫と情熱で仕上がってゆくりハーサルのプロセスを描いている。その「第九」の演奏は14分で綴っている。

【午前の部/濁川孝志講演】

現代の神話を探して

プロフィール

立教大学名誉教授

研究領域：心身ウエルネス論、

トランスパーソナル心理学

著書『大学教授が語る霊性の真実』『日本の約束』

『星野道夫～永遠の祈り』『星野道夫の神話』他

スピリチュアルな発想に根差した、健康な人の生き方を研究している。写真家・星野道夫の大ファンで、同時に星野道夫は研究対象。アウトドア大好き人間。



【午後の部/KNOB演奏】

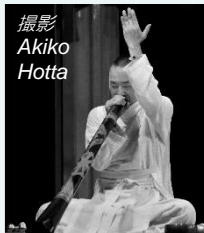
INORI

プロフィール

13歳から芸能界で活動後、25歳の時にオーストラリアにて先住民アボリジニの人々の伝統楽器で世界最古と云われている自然が作り出した木「ディジュリドゥ(イダキ)」に出会う。

2007年公開のドキュメンタリー映画「地球交響曲第六番」虚空の音の章に出演。

様々なアーティストとのコンサート活動と共に長年、国内外の神社、仏閣、教会、聖地での献奏活動を行なっている。



撮影
Akiko
Hotta